

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

特別上映会 5/9 日 ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

白夜のタンゴ

タンゴと人への愛に満ち溢れた音楽ドキュメンタリー



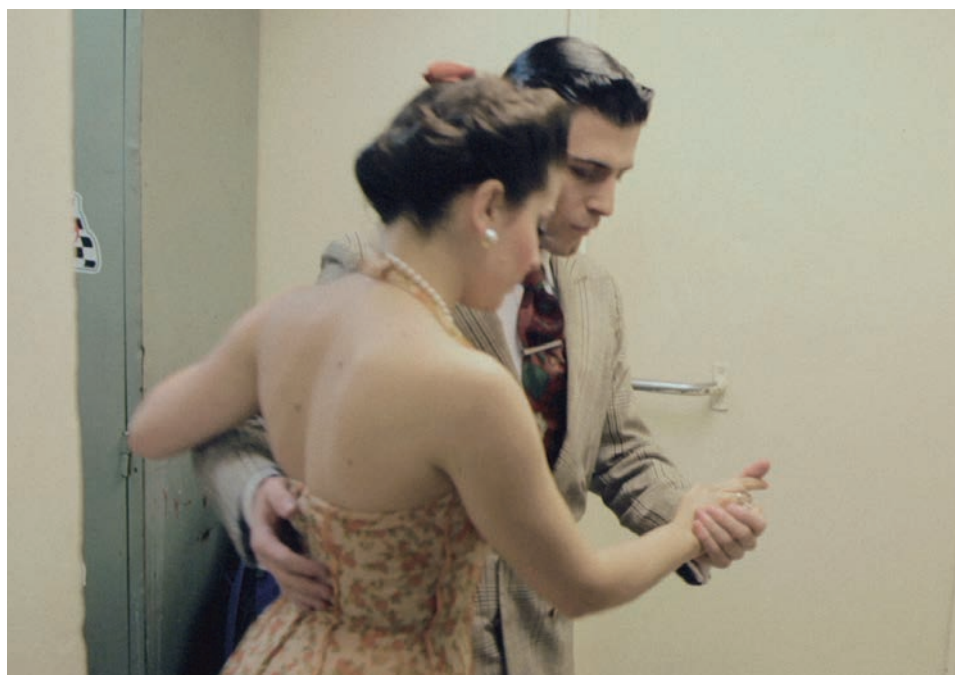
【上映時間】

- ① 10:30 - 11:53
- ② 13:30 - 14:53
- ③ 15:30 - 16:53
- ④ 17:30 - 18:53

♪ 18:53 - 19:30

アコーディオン・
ミニコンサート

by 風のアンサンブル



- * 全席自由・各回入替制。
開場は15分前です。
- * 上映時間は変更になる場合があります。
- * ミニコンサートはチケット
(半券含む) 提示で入場
できます。

● 企画者からのメッセージ ●

私は趣味で楽器演奏をするが、最近タンゴ音楽に興味を持ち始めた。そんな矢先、この映画と出会った。「タンゴ」はアコーディオンやバンドネオン演奏と情熱的なボーカル、ダンスから成り、どこかノスタルジックで魅惑的な世界が広がるのが特徴だ。と同時にこの世界でも高齢化問題という側面があることも知った。

この映画の最大の魅力は、「タンゴ」と「旅」を軸に、心なごむ癒しの気持ちになれるところにある。「フィンランド、タンゴ起源説」という斬新な設定のもと、3人のアルゼンチンタンゴミュージシャンが、美しいフィンランドの風景、音楽とともに、フィンランドの人々と心を開いていく。そこには余計な言葉はいらない。ゆったりとストーリーは進みながらも、現役ミュージシャンの演奏やタンゴの歴史、そして次世代への継承も盛り込んでおり、見応えがある。クラシックやロックほどメジャーでないこの「タンゴ」をさまざまな世代の人々に、その魅力を感じていただけたらと思う。

なお、4回目上映後には、ミニコンサートを開催します。映画にも使用されているアコーディオン演奏の醍醐味をぜひお楽しみください。
(中井)

特別上映会特設ページ <http://www.tamaeiga.org/special/tango>

前売 大人(中学生以上)1,000円 当日 大人(中学生以上)1,200円 子ども(4歳~小学生)600円

* TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日600円です。

4/4(土)、ベルブホールにて『ミンヨン 倍音の法則』の上映会が行なわれました。監督した佐々木昭一郎さんとは14年前の映画祭プログラム「RESPECT 佐々木昭一郎」以来のご縁。トーク前の上映回は開場前に長い列が出来ました。

本作は、佐々木監督が約20年の沈黙を破って創りあげた待望の新作であり、初の劇場公開作品です。70～90年代にはTVドラマディレクターとして活躍され、多くの映画監督が影響を受けたと公言しています。そんなある意味「伝説の作家」の実像に迫れる貴重な機会として楽しみにいらしたお客様も多かったのではないのでしょうか。

トークでは、監督を「日本の父」と慕うチェコ人の出演者ペトル・ホリーさんと和やかな雰囲気の中、2人の出会いや映画制作現場での話を振り返りました。

「神父が十字架を担いで歩くのは海外ではセンセーショナルなことなのに、渋谷でそれをやっても誰も気にしないのに驚いた」とペトルさん。佐々木さんは現場では演出しないことの原因を「頭のいい出演者たちがハートを与えてくれるから」と説明されていました。

映画制作は大変なことだと知ったけれど、ものづくりは天職だと語る監督、次回作もお待ちしております！ (黒川)



トークでの佐々木昭一郎監督(左)とペトル・ホリー氏(右)



『白夜のタンゴ』の上映会に合わせて、実行委員数名が各自お気に入りの「音楽映画」をセレクトしました。映画鑑賞のご参考にどうぞ！

『ライブテープ』(2009年/日本/74分/監督：松江哲明)

ストリートミュージシャン前野健太の吉祥寺ゲリラライブを1カット撮影したドキュメンタリーです。もちろん、前野さんの音楽に対する想いが曲を通してビシビシ伝わってきます。が、それ以上に作品内で監督と対象者が相互に質問をし合うという珍しいシーンがあるのですが、それを通してお互いの内面が浮き彫りとなり、さらに作品に深み加わるのが素晴らしいと感動しました。♪ 赤津

『アントニオ・カルロス・ジョビン 素晴らしきボサノヴァの世界』

(2011年/ブラジル/84分/監督：ネルソン・ペレイラ・ドス・サントス/ドーラ・ジョビン)

ボサノヴァを聴くと、からりと乾いた白い砂浜と青い海が思い浮かぶ。この作品は「イパネマの娘」「WAVE(波)」等で有名なボサノヴァの巨匠アントニオ・カルロス・ジョビンのドキュメンタリー作品。彼の曲を著名ミュージシャンが様々なスタイルで演奏し、彼自身も共演している。解説は一切ないが、曲のあいまに曲とアーティスト名が表示される。夏の暑い日、アルコールを片手に、仲間との語り合い時のBGMとして使うのもおススメだ。♪ 中井

『JIMI: 栄光への軌跡』(2013年/アメリカ/118分/監督：ジョン・リドリー)

天才ギタリスト、ジミ・ヘンドリックスのブレイク前夜を描いた伝記映画。ガールフレンドと送るパツとしない日々にはエキセントリックなパブリックイメージとは違う人間ジミへの側面がグッと来るし、そんな日々の隙間には近い将来——音楽そしてロックがカウンターカルチャーとして輝く時代——その象徴的存在となる彼の想像源となる宇宙的世界観を垣間見ることができます。黒人公民権運動家マルコムXとの対話シーンは今あらためて必見!! ♪ 宮崎

『ブルース・ブラザーズ』 (1980年/アメリカ/133分/監督:ジョン・ランディス)

刑務所を出たばかりの兄とその弟が生まれ育った孤児院を救うため、かつての仲間を集めてバンドを再結成し大奮闘する、音楽あり、アクションあり、そしてコメディありのやりたい放題爽快エンターテインメント。ジェームス・ブラウン、アレサ・フランクリン、レイ・チャールズなどゲストミュージシャンも豪華過ぎるほど豪華である。

最高の音楽とバカバカしさが混じり合った、ただひたすらに楽しい作品。🎵 一橋

『Salad Days』 (2014年/アメリカ/90分/監督:スコット・クロフォード)

80年代、アメリカ各地に沸き起こったハードコアムーブメント。その波はNYやLAなどの大都市に留まらず郊外の小都市にまで波及していった。そのなかでも強いDIYスピリッツで異彩を放ったワシントンDCのシーンに迫ったドキュメンタリー。享乐的なパンクアティチュードにノーマンを叩きつけたストレートエッジのオリジネーターであるマイナー・スレット、アフロアメリカンによるバッド・ブレインズ等の貴重な映像で構成される。🎵 松田

『JAZZ SEEN カメラが聴いたジャズ』 (2013年/ドイツ/77分/監督:ジュリアン・ベネディクト)

写真家ウィリアム・クラクストンとJAZZ黄金時代のミュージシャンとのドキュメンタリー作品。被写体に対して自然体をモットーとしている彼は、「光」を使ったテクニックなどもさらりとこなす。彼の斬新かつ調和の取れた作品は、単なる写真でない美しさを持ち、才能としか言いようがない。輝かしくも紆余曲折を経たJAZZミュージシャンの半生とともに写真を撮る。写真とは一瞬にして人生観をも映し出すものだなと感じた。🎵 中井

『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』 (1999年/キューバ/105分/監督:ヴィム・ヴェンダース)

アカデミー賞にもノミネートされサウンドトラックもグラミー賞を受賞、それまであまり知られていなかったキューバジャズにスポットを当てた作品。ハバナの街中を走るクラシックカーのように、アメリカなどの資本主義からは取り残された古老ミュージシャンたちのドキュメンタリー。

珠玉のキューバジャズももちろん素晴らしいのだが、国交の無い国のこの作品の裏に込められたであろうメッセージ性をいろいろと考えても興味深く観られる。🎵 青木

『アマデウス』 (1984年/アメリカ/160分/監督:ミロス・フォアマン)

誰もが知っているモーツァルトの音楽。ほとんど知られていない私生活。天才的かつ自由奔放な彼の姿が、時代に忘れ去られた音楽家サリエリの目を通して語られる。圧巻のオペラシーンを筆頭としたきらびやかな音楽の世界と、天才に嫉妬する凡才の悲しみが対比するように紡がれる。誰もが経験するだろう共感を元に、新しいモーツァルト像を浮かび上がらせる作品。🎵 横倉

『クレイジー・ハート』 (2009年/アメリカ/111分/監督:スコット・クーバー)

主人公バッドはかつて一世を風靡したカントリーミュージシャン。57歳になった今、人気は低迷し、酒浸りの生活を送っている。そんな彼が地方記者ジーンと出会い……。いや〜アル中だけど芯のあるおっさんを演じさせたらジェフ・ブリッジスの右に出る人はいないですね。

本作品では彼自らギターを演奏しており、この演奏が彼の実力が衰えていないことに説得力を与えています。自分も57歳で「俺もまだいけるだろ」と言ってみたい! 🎵 久木野

『ワイルド・スタイル』 (1982年/アメリカ/82分/監督:チャーリー・イーハン)

ヒップホップカルチャーを広めたヒップホップ映画の金字塔的作品。1982年。まるでここは戦場か? っていうくらい荒廃したニューヨークの風景のなか、新しい文化が創造される時の人々の熱い息吹にまず興奮するし、「この曲は!!」とその後に制作された名曲の元ネタを本作のなかに見つけては、本当にここが出発点となって世界中にヒップホップが広まっていったんだと、30年たった今では感動的ですらあります。多幸感半端ないっす!! 🎵 宮崎

第16回 TAMA NEW WAVE 作品募集中!! (<http://www.tamaeiga.org/newwave/>)

TAMA NEW WAVE では今年11月に開催される第16回 TAMA NEW WAVE コンペティションに向けて、作品を募集中です。応募締切は6月26日(金)。たくさんのご応募をお待ちしています。

『ひとまずすすめ』(柴田啓佑監督)が6/6(土)～テアトル新宿にて1週間限定レイトショー公開決定。

昨年のTAMA NEW WAVE コンペティションのノミネート作品。地方都市に住むアラサー独身女性が、いまの生活から抜け出したいと思い悩む姿をやさしくユーモラスに描いた快作です。

『みちていく』(竹内理紗監督)が6/27(土)～渋谷ユーロスペースにてレイトショー公開決定。

昨年のTAMA NEW WAVE コンペティションのグランプリ作品。女子高陸上部のエースとキャプテンの関係を中心に、思春期を過ごす女子高生たちの姿を瑞々しく切り取った作品。大学の卒業制作とは思えない見事な会話のアクション演出は必見です。

6/6(土)
ベルブホール

OYAKO
-present to the future-

*当日はブルース・オズボーン氏と井上佳子プロデューサーによるトークイベントもあります。

次回特別上映会は、6/6(土)に『OYAKO - present to the future -』を予定しています。本作は、米ロサンゼルス出身の写真家ブルース・オズボーン氏の活動を追ったドキュメンタリーです。

1980年の来日以来、ライフワークとして日本国内で5,000組にのぼる親子の写真を撮影してきたオズボーン氏は、英語圏にはない「親子=OYAKO」という概念に関心を持つとともに、世界に投げかけるメッセージを見出すようになります。本作を通じて、実は日本固有の概念だった「親子=OYAKO」について、改めて考えてみてはいかがでしょうか。



映画祭新実行委員募集!

TAMA映画フォーラム実行委員会は、2015年11月21日(土)～11月29日(日)に開催予定の第25回映画祭TAMA CINEMA FORUMと一緒に作る実行委員を募集しています!

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい...など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

この度5月17日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また、日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。

詳細はホームページ www.tamaeiga.org をご覧ください。



支援会員制度のお願い

当映画祭を一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「見る人、見せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員] 一口1000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会
(ご不明な点はお問い合わせください)

特典①:映画祭チラシ送付

特典②:映画祭パンフレット贈呈

特典③:特別上映会割引(当日料金が半額!)
2～8月の間に4～5回開催予定)

※その他特典もご用意する予定です。

TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ www.tamaeiga.org

 @tamaeiga (最新情報をフォロー)  www.facebook.com/tamaeiga (facebookページに「いいね!」で参加)